



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2017年度 NO.1

■目次

- ・新会長就任挨拶
- ・前会長退任挨拶
- ・第18回（北海道）大会を終えて
- ・第19回（九州）大会開催に向けて
- ・理事会報告
- ・2017年度総会報告、総会報告の一部修正
- ・2016年度事業報告及び決算報告
- ・2017年度事業計画及び予算
- ・2017-2018年度役員改選
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・2017年度高良記念研究助成対象者決定報告
- ・企画研究WG報告
- ・楨本記念賞WG報告
- ・支部活動報告
（北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部）
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報（2017年4月～9月）

新会長就任にあたって 継承と変革—日本インターンシップ学会の未 来を見つめて—

2017年度の会長就任にあたって、全国の会員の皆様にご挨拶申し上げます。1999年の設立以来、わが国のインターンシップの普及・促進に大きく貢献し、これまで、日本インターンシップ学会の礎を築き、日進月歩の発展を導いてこられました



歴代の会長をはじめとする諸先輩方の志を受け継ぎ、すべての会員の皆さまのお力添えを賜りながら、本学会の更なる発展に向けて尽力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

さて、設立趣意書において述べられていますとおり、本学会では、これまで、「学校教育の一環として据えて、インターンシップの健全な発展と普及すること」を主眼として、研究活動が展開されてまいりました。そして、設立から20年の節目を目前とする現在、産学官の新たな関係の構築など、グローバル化の急速な進展にともない、企業・団体組織や経営体を取り巻く環境の急激な変化への対応が迫られるなかで、わが国のインターンシップは、さまざまな分野において、ますます多様な仕方での発展を遂げつつあります。

このような変化にともない、本学会において教育研究活動に励む会員の皆さまの専門領域も、近年、非常に広範囲に及んでいます。事実、ここ数年の全国大会では、会員の皆さま各々の専門領域の立場から進められた独自の・複合的な研究成果が数多く発表されています。このような傾向は、これからの本学会の発展の大きな可能性を示唆するものとしてとらえることができます。

しかしながら、そのためには、急速な研究・教育環境の変化に柔軟に対応できる会員の皆さま同士のネットワークの構築が不可欠です。本学会のますますの発展に向けて、研究者と実務者との交流、さらには、研究と実践の循環を促進し、研究と実践の実質化を図るための体制の整備が強く求められているのです。

それゆえ、新体制では、常任理事、理事、事務局の方々と協力して、各支部の強みを生かした魅力ある研究の成果を全国の会員の皆さまが共有できるオール・ジャパンの相互交流の機会を拡大するとともに、社会から求められる魅力的・効果的な実践を展開することのできる体制づくりに取り組んで参りたいと思います。また、本学会の更なる発展を実現するため、役員の方々の分担や業務の在り方など、これまでの学会運営を立ち止まって見直し、人的・物的な資源の効果的・効率的な活用を図ることも積極的に進めていく所存です。

本学会の更なる発展に向けたこれらの試みの実現には、何より会員の皆さまのご理解とご協力が不可欠です。広く忌憚のないご意見を伺いながら、会員の皆さまお一人お一人のより充実した学会活動を実現することのできる開かれた学会運営を目指して参りたいと思います。どうぞ、これまでと変わらぬご支援をお願い致します。

（会長 折戸晴雄・玉川大学客員教授／株式会社玉川・オリエンタルコンサルタンツ総合研究所代表取締役）

会長交代にあたってのご挨拶

みなさまのご協力のお陰をもち、4期8年間の会長職を全うさせていただくことができました。この度、役員任期制を導入し新しい世代に学会運営をバトンタッチするにあたって、会員のみなさまへの御礼をかねて、これまで学会として目指し、達成してきたことをふり振り返り、将来に向けての方向性についての私の考えも、この機会にお話ししたいと思います。

2009年に会長に選出され今日まで、亀野淳、長尾博暢、岡本信弘の歴代事務局長はじめとする会員諸氏に支えられ、学会の量的拡大と質的な充実にとりくんで参りました。就任時には、会長挨拶にあるとおり「学術と実践の往還のアゴラ」という目標理念を掲げました。インターンシップ研究は、インターンシップ等の内外諸制度やその実践を研究対象とし、実証的方法による把握と診断を行い、産学連携教育や教育社会の現実や展望について理論的に論じることを課題とし、実践の問いにも十分対応できる学術研究が求められると考えたからです。

一方の、実践をベースにした学術の場づくりとしては、地方4支部体制を確立し、現場関係者が参加しやすい支部単位での研究を通して実践のネットワークづくりを目指してきました。これが、榎本淳子顧問のご寄付による「秀逸なインターンシップ」を顕彰する榎本記念賞の制定に繋がっています。

他方で、国際的に通用する学術の世界への位置づけとして、研究年報の査読体制を確立し、日本学術会議の協力学術団体への登録を進めました。また、若手研究者の研究支援のために、高良和武初代会長からのご寄付をもとに高良記念賞を設けました。そして、企画研究ワーキンググループを設置し、共同研究・国際研究などの企画を奨励するとともに、実践的背景を持つ会員の学術論文作成にむけた研鑽・指導の場を設定してきました。後者は、教育実践領域にかかる学会の多くが直面している課題であり、各地方支部でのセミナー開催を行ってきました。前者では、国際学会WACEへの団体加盟、学会のネットワークをもとにした科学研究費等へのアプライ、文部科学省補助金事業による国際比較研究などをサポートし、これが学会英語名称Japan Society of Internship and Work Integrated Learning制定につながり、文部科学省の調査研究協力者会議でもこの「職業統合的学習」が今後の政策課題として言及されるまでになった次第です。

これからも、「学術と実践の往還のアゴラ」の初志を、一会員として皆さんと一緒に探究していきたいと思っております。学術的背景をもち実践に関わる会員もあれば、実践的経験を吟味し学術に深めようとする会員もいます。会員それぞれが異なる世界へ飛び込み、あるいは異なる世界での経験を経て自分の世界にかえり、それぞれを豊かにしていく、本学会が、そうした往還における「出会いと対話の場(アゴラ)」であってほしいと願っています。(前会長 吉本圭一・九州大学)

第18回(北海道)大会を終えて

8月31日、9月1日の2日間、札幌国際大学/札幌国際大学短期大学部において、第18回大会を開催いたしました。北海道という遠方での開催、また平日での開催で参加者が少ないのでは、と危惧しておりましたが、100名をこえる方々のご参加をいただきました。

さて、今大会テーマは「社会から見たインターンシップ—その役割の変化」でした。インターンシップは就業前の職業体験としての役割を期待された当初から比べると、現在では多くの役割が求められています。また期間やプログラムなど、類型も多岐に渡っており、定義自体が曖昧になりつつあります。学生・社会・教育機関が納得し、貢献できるシステム構築に向けて、本学会の役割はますます重要なものとなることを今大会で実感いたしました。

さて、当日のプログラムのようすですが、最初のプログラムとして、基調講演「地域密着戦略と人材育成」を、株式会社セコマ代表取締役社長の丸谷智保社長からご講演いただきました。地産地消を実践し、北海道という地域に根差したセイコーマートの取組は、他のコンビニエンスストアとは一線を画すものと感じられたかと存じませぬ。続いてシンポジウム「地域活性化に関わるインターンシップ」を開催いたしました。今回は職種に問わず地域の将来、活性化に関わる活動、また派遣事例をご発表いただきました。リゾートホテルの海外インターンシップや、都心部での事業継続に向けた危機管理、また自治体の観光振興という三者三様の発表でしたが、共通しているのは、「この地域・事業が抱える課題の解決」というPBL型思考から組まれたプログラム、課題に対する学生の能動的な活動、さらに学生が地域で活動することによるコミュニケーションの創出だったのではないのでしょうか。

その後は第2回榎本記念賞の授与式が行われ、もっとも秀逸なインターンシップとして近畿大学の事例が、秀逸なインターンシップとして4事例が表彰されました。引き続き高良記念研究助成報告として2名の方にご報告いただいた後、年次総会、さらに約50名の方にご参加いただき懇親会を開催いたしました。

2日目は、個別自由研究発表を行いました。22件のお申し込みがあり、4教室に分かれて発表いただきました。研究発表の分野も広がりを見せており、教室ごとの議論も活発に行われていたようです。

昨年10月に大会実行委員長就任のご挨拶をしてから、1年間がものすごい速さで進んでいったように感じております。実行委員のみなさまからはご助言、ご協力をいただき、また本部からのご支援などにより、大きなトラブルなく大会を終了することができました。関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。しかしながら参加者の皆さまに対しましては、細かい部分での失礼やご不便をおかけした面がありましたこと、この場を借りてお詫びを申し上げます。今後の大会運営に申し添えたいと存じます。

最後になります。来年度・九州での大会は香蘭女子短期大学にて開催されると伺っております。第19回大会がより一層の盛会となりますことを祈念いたします。

(第18回大会実行委員長 小林 純・札幌国際大学短期大学部)

第 19 回 (九州) 大会開催に向けて

第 18 回大会にてご紹介があったのではないかと存じますが、第 19 回大会の開催校となりました香蘭女子短期大学の中瀆と申します。この場をお借りして、ご挨拶申し上げます。

2018 年度・第 19 回大会は、福岡県福岡市にあります香蘭女子短期大学にて開催させていただくことになりました。福岡県での開催は、4 年前の北九州市立大学での開催以来となります。大会実行委員長という大役を拝命し、大きな時代の転換期に本学で日本インターンシップ学会の全国大会を開催させていただくことの責任の重さを痛感しております。

さて、大会開催における具体的な内容につきましては、今後九州支部会員を中心に実行委員会が組織され、検討を進めて参ります。大会日程は 2018 年 9 月上旬を予定しております。テーマや具体的なプログラムに関しては今後九州支部の皆様と話し合いを行いながら、決定したいと考えています。今後の情報につきましては、日本インターンシップ学会の HP 等を通じて公開する予定です。

ここで、開催校となる香蘭女子短期大学について簡単にご紹介させていただきます。本学は、創立者故山内良子先生の建学の精神を受け継ぎ、「いかなる困難な場であっても、創意・工夫を大切にし、人を愛し、人から愛される自立した女性の育成」を掲げ、技術教育を重視した職業教育を行って参りました。2018 年に開学 60 周年を迎える本学は、これまでに 3 万人以上の卒業生を世に送り出し、特にファッション (被服) の世界において九州を中心に名が広く知られています。現在、本学には、ファッション総合学科、保育学科、食物栄養学科、ライフプランニング総合学科の 4 つの学科と一つの専攻科 (テクニカル専攻科) があり、約 830 名の学生が学んでいます。

また、本学は、短期大学コンソーシアム九州に加盟しており、短期大学における職業教育・キャリア教育のあり方について、高等教育の専門家をお招きし、多くの助言をいただきながら、短大独自のキャリア教育とは何かについて考えて参りました。日本インターンシップ学会の全国大会 (第 17 回) でもこれまでの活動成果について報告を行わせていただいております、少しずつ活動範囲を拡大している最中です。

本学は、福岡市南区にあり、天神・博多といった福岡市の中心街へ電車やバスを使って 20 分程度で着くことのできるとても便利な場所に立地しています。学校の西側には博多湾へと繋がる那珂川が流れており、都市部の中にありながら、自然を感じることでできる環境の中で、学生たちは学んでいます。福岡の 9 月はまだ残暑の厳しい時期かもしれませんが、第 19 回大会のスタッフ一同皆様のお越しを心よりお待ちしております。

(第 19 回大会実行委員長 中瀆雄一郎・香蘭女子短期大学)

理事会報告

2016 年度第 5 回理事会 (6 月 10 日 於: キャンパスプラザ京都)

(1) 入退会申請について

入会申請は全 12 件あり、すべて承認された。また、退会申請は、全 12 件すべて承認された。今回、大会発表希望の新入会員があり、申込期日を過ぎていたが、協議の上特例として認めた。

(2) 第 18 回学会大会について

小林大会実行委員長より、大会開催日時を 8/31 (木) ~9/1 (金) とし、「社会から見たインターンシップ—その役割の変化」を大会テーマとすることが報告された。また、発表枠は全 24 枠で用意することが報告された。

(3) 2017・2018 年度理事選挙及び会長選挙について

古田選挙管理委員より、資料に基づき、会員による理事選挙により新理事候補 15 名が決定し、会長選挙進行中であるとの進捗が報告された。

(4) 広報委員会

事務局より、ニュースレター 2016 年度第 2 号の発行・発送予定が、報告された。

(5) 2017 年度高良記念研究助成

事務局長より、現在公募中であり、審査委員会の組織案について提案があり、審議のうえ原案が承認された。

(6) J-stage への学術論文の掲載について

事務局より、J-stage への移行・公開に必要な手続きを進めている。掲載論文の範囲は、年報編集委員会ならびに広報委員会により検討いただき、J-STAGE への学術論文掲載を進めていくことを確認した。

2017 年度第 1 回理事会 (8 月 10 日 於: 札幌国際大学/札幌大学短期大学部)

(1) 入退会申請について

入退会の申請者について、資料に基づき説明あり。入会 5 名 (個人 4 名、団体 1 名)、退会 1 名 (個人) の申請は、全て了承された。

(2) 2017 年度事業報告 (案) について

事務局長より、資料に基づき説明があり、事業報告の中に各委員会報告を追記することとした。

(3) 2014 年度決算案について

事務局長より、資料に基づいて説明がなされた。また、監査結果について報告があり、適正な運営の確認とともに、次の 3 点の付帯意見が伝えられた。①支部活動費の会計ルールの不統一、②大会時理事会出席時の旅費補助、③新規会員の入会に関する自由意思が疑われる事案、の指摘がなされた。

(4) 2017 年度予算案について

事務局長より、資料に基づき説明があり承認された。

(5) 第 18 回大会について

小林大会実行委員長より、資料に基づき大会に向けての最終準備状況として、予定通りほぼ順調に準備が進ん

でいることが報告された。参加申込状況は、現在 57 名、予定 70 名以上に上回る見込みとなることが報告された。

(6) 2017・2018 年度理事選挙及び会長選挙について

高橋選挙管理委員長より、資料に基づいて説明あり。選挙により選出され、本人の承諾があった理事候補 15 名の報告があった。また会長選挙の結果、折戸会員が会長候補として選出され、本人の承諾があったことが報告された。

(7) 高良記念研究助成について

事務局長より、3 名の応募があり高良記念研究助成審査委員会で厳正に審査し、2 名の採用決定を承認した。

(8) 榎本記念賞について

田中 WG 副委員長より、資料に基づいて説明あり、選定結果については第 18 回大会総会にて発表のうえ表彰状を授与することを議決した。

2017 年度第 2 回理事会 (8 月 31 日 於：札幌国際大学/札幌国際大学短期大学部)

(1) 第 18 回大会について

小林実行委員長より、事前申込数 90 名で予想を上回る結果であったことが報告された。

(2) 高良記念助成について

今年度受賞が決定した 2 名の方の表彰が予定されている。榎本記念の授賞式に続いて高良記念の受賞の手順で実施されることが報告された。

(3) 榎本記念賞について

高良記念同様、総会の議題を前倒しにして、榎本記念賞の議事をおこない、受賞団体を紹介して表彰する。受賞校・団体は、すべて出席予定であることが報告された。

(4) 入退会について

資料に基づいて説明あり。1 名の入会申請について、了承された (後日入会年度の是正を行った)。

(5) 入会申込書の改定について

資料に基づいて、入会に際して、本人の自由意思であることを確認するために自署欄を設けることとした。入会時の会員紹介については、推薦会員を明記する。個人、学生会員の申込用紙は、用紙の下部に自署欄を設け、団体会員は、連絡担当者の署名欄を設けることで、本人確認とすることとした。

(6) 旅費補助の申し合わせ事項について

資料に基づいて、学会大会時の理事会の旅費補助は、対象外とする件についての申し合わせ事項を検討し、これを承認した。

(7) 2017・2018 年度新体制 (案) について

資料に基づいて、新体制役員案が報告され、理事会で承認後、最終的に総会時の審議事項として承認される手順で進められることが確認された。

(8) 総会議題について

事務局長より、総会議題について決内容と資料の確認がなされた。

(9) 次期大会校について

吉本会長より、来年の第 19 回大会は九州支部の香蘭女子短期大学で開催校をお引き受けいただくことになったとの報告があった。

なお、各理事会で行われたそのほかの委員会・WG、支部の報告の詳細につきましては、本 NEWS LETTER の委員会・WG・支部の報告記事をご参照願います。

(前事務局)

2017 年度総会報告

2017 年度総会が、2017 年 8 月 31 日 (木) 札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部において開催され、以下の報告・審議が行われました。

(1) 2016 年度 事業報告

事務局長より資料に基づき説明があり、承認された。

(2) 2016 年度 決算報告および 2016 年度 監査報告

事務局長より 2016 年度の決算報告が資料をもとに、報告がなされた。その後、収支計算書に基づき、監事は欠席のため、事務局長が監査報告を読み上げ承認された。また、また付帯意見についても、事務局長が「平成 28 年度監査における付帯意見」を読み上げ、総会で承認された。付帯意見は、1. 支部共通の活動費使用ルール、2. 役員の仕事費補助の範囲の明確化、3. 入会申請における申請者の自由意思確認、4. 相互信頼に基づく学会の運営、の 4 点である。

(3) 2017・2018 年度 役員選出について

高橋選挙管理委員長より、資料をもとに 2017・2018 年度新理事・新会長候補選出のための選挙が実施され、新理事候補として 15 名を、新会長候補として折戸晴雄会員を選出したことが報告された。それを受けて総会では、15 名の新理事および新会長の選出を承認した。

(4) 2015・2016 年度 委員会組織について

折戸新会長より、役員選出の総会承認を受けて 2017・2018 年度役員組織に関して副会長 2 名、常任理事 5 名、理事 7 名、会長指名理事 5 名、監事 2 名、事務局長 1 名の提案がなされ、これを承認した。また各種委員会の委員長案についても報告がなされた。(なお、会則との抵触事項があり、監事 1 名の承認を取り下げることとした、本ニューズレター書面会議参照)。

(5) 2017 年度 事業計画

事務局長より資料に基づき、事業の概要について説明があり、承認された。

(6) 2017 年度予算について

事務局長より資料に基づき、一般会計予算案、特別会計予算案について説明があり、承認された ((5)・(6)の詳細は「2017 年度事業計画及び予算」を参照)。

(7) 高良記念研究助成について

2017 年度高良記念研究助成審査委員長、山口委員長より、今年度は 2 名の研究が採択されたことが報告された。

その中で榎村真由会員（東京工業高等専門学校）、岩井貴美会員（近畿大学大学院）が承認され授与式が行われた。

(8) 榎本記念賞について

眞鍋委員長から、第2回榎本記念賞選定結果について会員のみならず、大会参加者をオブザーバーとして同席の上、報告がなされ承認された。最も秀逸な事例として、近畿大学、秀逸な事例として4つの団体、九州インターンシップ推進協議会、和歌山大学、西九州大学、ものづくり大学の計5件が選出され、これを承認し、表彰式が行われた。（詳細は「榎本記念賞WG報告」を参照）。

(9) 第19回大会について

吉本会長より、次回の第19回全国大会は、九州支部、香蘭女子短期大学で開催することの報告があり、これを承認した。また、実行委員長には中濱会員が予定されていることが報告された。（前事務局）

総会議決の一部修正について（重要）

2017年度日本インターンシップ学会総会の議題4

「2017-2018年度役員」については、折戸新会長から資料3-3にもとづき提案があり、総会にて審議承認された。しかし、その後、監事1名について会則第13条、ならびに会則（役員の任期・再回数）改定にかかる経過規程に抵触することが確認されました。そこで、一部承認を取り消すこととし、修正を提案します。

本ニュースレターで紹介されている役員名簿は、修正提案にもとづくものです。これを確認いただき、異議があれば12月20日までに、総会時議長吉本圭一（メールアドレス jsi-sec@js-internship.jp）までご連絡ください。会員のみならず、各支部の特段の意義がなければ、本修正案は承認されたものとします。

（大会時議長 吉本 圭一）

2016年度事業報告及び決算報告

「2017年度総会報告」のとおり、2016年度事業報告及び決算報告について総会にて下記のとおり承認されました。

（2016年度決算報告は7ページをご覧ください）

1. 2016年度事業期間

・2016年7月1日～2017年6月30日

2. 事業の概要

・2016年9月3日・4日 第17回大会開催（会場：目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパス）総会

・2016年9月3日 総会（目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパス）

3. 理事会

・第1回理事会 2016年8月11日（キャンパスプラザ京都）

・第2回理事会 2016年9月3日（目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパス）

・第3回理事会 2016年12月10日（九州大学箱崎キャンパス）

・第4回理事会 2017年3月4日（近畿大学東京センタ

ー）

・第5回理事会 2017年6月10日（キャンパスプラザ京都）

4. 各種委員会

(1) 年報編集委員会

・2016年11月『インターンシップ研究年報』19号発行

(2) 広報委員会

・ニュースレターの発行（年2回）

・NEWS LETTER2016 No.1（発行日：2016年11月30日）

・NEWS LETTER2016 No.2（発行日：2017年5月31日）

・学会ウェブサイトによる情報発信

・メルマガによる情報配信

(3) 企画研究WG

・セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」 2016年8月10日（キャンパスプラザ京都、関西支部・年報編集委員会との共催）

・セミナー「日々の実践からの研究企画と論文作成に向けて」 2016年12月10日（九州大学 箱崎キャンパス、九州支部・年報編集委員会との共催）

(4) 榎本記念賞WG

2015、2016年度の2年間に大会や各支部で報告されたインターンシップの秀逸な事例を収集し、2017年度大会にて表彰を行うべく、選考を行った。各支部から合計12例の「秀逸な」インターンシップ事例が推薦され、ワーキンググループメンバーでの選考を実施、1件の「最も秀逸な事例」と4件の「秀逸な事例」を選定し受賞校は2017年8月31日に実施される第18回大会にて表彰さる。

(5) 高良記念研究助成審査委員会

「2016年度高良記念研究助成」実施

2016年度は5件応募があり、審査委員会において厳正に審査を行い2名の会員が助成対象となった。

5. 各支部活動：

(1) 北海道支部

・2016年10月13日 支部運営委員会

・2017年3月26日 2016年度北海道支部総会および2016年度研究会（札幌国際大学経済センターキャンパス）

(2) 東日本支部

・2016年7月9日 2016年度第1回研究会（文化学園大学）

・2016年12月11日 2016年度第2回研究会（ガレソンホール新潟）

・2017年3月5日 2016年度第3回研究会（玉川大学）

(3) 関西支部

・2016年8月10日 第11回支部研究会 論文書き方セミナー（キャンパスプラザ京都）

・2017年2月16日 支部運営委員会（キャンパスプラザ京都）

・2017年6月9日 第12回支部研究会（キャンパスポト大阪）

(4) 九州支部

・2016年10月8日 第17回研究会・総会

・2016年12月10日 第18回研究会 論文書き方セミナー（九州大学 箱崎キャンパス）

・2017年3月10日 第19回研究大会(九州大学 箱崎キャンパス)

6. その他:

(1) 国立情報研究所(NII)から科学技術振興機構(JST)への学術雑誌等の電子化・公開業務の移行

(2) 学会後援・協賛事業等

・「大学間連携共同教育推進授業成果発表会」(2016年10月21日)

・「平成28年度文部科学省委託事業及びEAS職業教育事業者ネットワーク九州大学国際会議「第三段階教育における職業教育と学位・資格のアジア型アプローチ」(2017年1月26日~28日)

・「学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 平成28年度文部科学省委託事業 成果報告会」(2017年1月31日) (前事務局)

2017年度事業計画及び予算

「2016年度総会報告」のとおり、2017年度事業計画ならびに予算について、総会にて下記のとおり承認されました。(2017年度予算は8ページをご覧ください)

2017年度事業計画

1. 2017年度事業期間

2017年7月1日~2018年6月30日

2. 事業の概要

(1) 第18回大会の開催 2017年8月31日(木)~9月1日(金) (札幌国際大学/札幌国際大学短期大学部)

(2) 支部研究会の開催 (各支部年2~3回程度)

(3) インターンシップ研究年報20号の刊行

(4) News Letterの発行(年2回)、その他広報活動の充実

(5) 「2017年度 高良記念研究助成」実施

(6) 槇本記念賞充実のための活動

(7) その他 (前事務局)

2017-2018年度役員改選

2017年度総会におきまして、2017-2018学会年度役員が以下のとおり決まりました。(五十音順敬称略)

【会長】

折戸晴雄(玉川大学)

【副会長】

古閑博美(嘉悦大学)、眞鍋和博(北九州市立大学)

【常任理事】

牛山佳菜代(目白大学)、江藤智佐子(久留米大学)

高橋秀幸(北海道武蔵女子短期大学)、長尾博暢(鳥取大学)、松坂暢浩(山形大学)

【理事】

稲永由紀(筑波大学)、大島慎子(筑波学院大学)、

岡本信弘(博多工業高等学校)、高橋哲夫(文化学園大学)、薬師丸正二郎(立教大学)、山口圭介(玉川大学)、

吉田雅也(淑徳大学)

【会長指名理事】

小林 純(札幌国際大学)、高瀬和実(岩手県立大学)、
田村明子(新潟大学)、根木良友(玉川大学)、
廣瀬幸弘(立命館大学)

【監事】

横山 皓一(株式会社SKY 経営研究所)

【事務局長】

根木 良友(玉川大学)

【委員会等】◎委員長、○副委員長

年報編集委員会

◎長尾博暢、○薬師丸正二郎、稲永由紀

広報委員会

◎高橋秀幸、○吉田雅也、大島慎子

高良記念研究審査委員会

◎牛山佳菜代、○山口圭介、廣瀬幸弘

企画研究ワーキンググループ

◎江藤智佐子、○高橋哲夫、小林 純、高瀬和実

槇本記念賞ワーキンググループ

◎松坂暢浩、○岡本信弘、田村明子

なお、理事以外を含めた正式な委員会等の構成は後日、webサイトに掲載いたします。(事務局)

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第21号への

投稿を募集いたします

年報編集委員会では、『インターンシップ研究年報』第21号への投稿を募集いたします。投稿に当たっては、希望する区分を明記の上、投稿をお願いいたします。

(1) 「研究論文」

① 「論文」(一定の研究成果をまとめたもの)

② 「研究ノート」(「論文」に準ずる研究成果をまとめたもの、もしくは研究の基礎となる情報をまとめたもの)

(2) 「資料等」

① 「資料」(報告・資料等会員のさらなる研究・実践活動に資するもの)

② 「活動紹介」(実践活動を取りまとめたもの)

③ 「書評」、④ 「その他」

「研究論文」については、専門分野の会員による査読を行い、その結果を踏まえ、年報編集委員会において掲載の可否を決定いたしますが、必要に応じて、他の区分への変更をお願いすることもあります。また、「資料等」については、査読は行いませんが、年報編集委員会において、掲載の可否を判断いたします。原稿は、原則として電子メールに電子ファイルを添付するかたちで、投稿者の連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)と共に、下記メールアドレスに送信して下さい。

締切: 2018年1月20日(土)(厳守)

送信先: 日本インターンシップ学会年報編集委員会

E-mail: jsi-bec@js-internship.jp

2016(平成28)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書(案)
(2016年7月1日～2017年6月30日)

【一般会計】

(単位:円)

支出の部	2016年度予算(a)	2016年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2016年度予算(a)	2016年度決算(b)	予実差異(b-a)
事業費	1,550,000	1,556,732	6,732	会費収入	2,240,000	3,125,000	885,000
(北海道支部活動費)	150,000	150,000	0	(個人会員)	1,380,000	2,080,000	700,000
(東日本支部活動費)	150,000	150,000	0	(学生会員)	80,000	65,000	-15,000
(関西支部活動費)	150,000	150,000	0	(法人・団体会員)	780,000	980,000	200,000
(九州支部活動費)	150,000	150,000	0	事業収入	0	28,000	28,000
(大会開催費)	300,000	300,000	0	(研究会収入)	0	0	0
(年報作成費)	300,000	363,205	63,205	(書籍・年報等販売収入)	0	28,000	28,000
(記念事業費)	0	0	0	雑収入	300	660,981	660,681
(役員選挙費)	150,000	118,811	-31,189	(受取利息)	300	23	-277
(名簿作成費)	200,000	174,716	-25,284	(その他の収入)	0	104,030	104,030
事務管理費	2,150,000	1,691,371	-458,629	(大会開催費余剰金)	0	0	0
(通信費)	200,000	107,575	-92,425	(北海道支部余剰金)	0	169,708	169,708
(HP管理費)	50,000	38,880	-11,120	(東日本支部余剰金)	0	14,844	14,844
(役員・委員等旅費補助)	700,000	520,000	-180,000	(関西支部余剰金)	0	127,753	127,753
(業務外部委託費)	900,000	938,496	38,496	(九州支部余剰金)	0	244,623	244,623
(その他運営費)	300,000	86,420	-213,580				
積立金(特別会計へ)	200,000	200,000	0				
予備費	4,890,298	0	-4,890,298				
次年度繰越金	0	6,915,876	6,915,876	前年度繰越金	6,549,998	6,549,998	0
合計	8,790,298	10,363,979	1,573,681	合計	8,790,298	10,363,979	1,573,681
(当該年度事業のみ)	3,900,000	3,448,103	-451,897	(当該年度事業のみ)	2,240,300	3,813,981	1,573,681

【特別会計(高良記念研究助成、槇本記念賞)】

(単位:円)

支出の部	2016年度予算(a)	2016年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2016年度予算(a)	2016年度決算(b)	予実差異(b-a)
2016年度研究助成金	200,000	200,000	0	受取利息	50	3	-47
槇本記念賞事業費	100,000	0	-100,000	余剰金	0	0	0
振込手数料	1,000	1,080	80	その他	100,000	0	-100,000
予備費	495,276	0	-495,276	積立金(一般会計より)	200,000	200,000	0
次年度繰越金	0	495,149	495,149	前年度繰越金	496,226	496,226	0
合計	796,276	696,229	-100,047	合計	796,276	696,229	-100,047

2016(平成28)年度 貸借対照表兼財産目録(2017.6.30現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	8,725,117	(負債の部)	
手持現金(九州大)	0	流動負債	1,314,092
預金	8,365,381	特未払金	200,000
福岡銀行(一般会計)	1,132,706	未払費用	219,092
福岡銀行(特別会計)	496,149	特未払費用	0
郵便振替口座	6,736,526	前受金	895,000
		仮受金	0
未収入金	159,736	固定負債	0
一)未収入金	200,000	(純資産の部)	
立替金	0	剰余金	7,411,025
		(一般会計繰越金)	6,915,876
固定資産	0	(特別会計繰越金)	495,149
資産合計	8,725,117	負債・純資産合計	8,725,117

(注)本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2017(平成29)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算(案)

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2017年度予算額	前年度予算額	2016年度実績	2015年度実績	2014年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,635,000	2,240,000	3,125,000	2,240,000	2,801,000	395,000
	個人会員(10,000円)	1,720,000	1,380,000	2,080,000	1,380,000	1,826,000	340,000
	学生会員(5,000円)	75,000	80,000	65,000	80,000	85,000	-5,000
	法人・団体会員(20,000円)	840,000	780,000	980,000	780,000	890,000	60,000
事業収入	小計	0	0	28,000	0	0	0
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	0	28,000	0	0	0
雑収入	小計	100	300	660,981	252,924	138,561	-200
	受取利息	100	300	23	95	19	-200
	その他の収入	0	0	104,030	0	0	0
	大会開催費余剰金	0	0	0	0	0	0
	北海道支部余剰金	0	0	169,708	53,450	92,738	0
	東日本支部余剰金	0	0	14,844	0	1,274	0
	関西支部余剰金	0	0	127,753	110,000	44,530	0
	九州支部余剰金	0	0	244,623	89,379	0	0
当期収入合計(A)		2,635,100	2,240,300	3,813,981	2,492,924	2,939,561	394,800
前期繰越収支差額		6,915,876	6,549,998	6,549,998	6,781,074	6,263,123	365,878
収入合計(B)		9,550,976	8,790,298	10,363,979	9,273,998	9,202,684	760,678

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2017年度予算額	前年度予算額	2016年度実績	2015年度実績	2014年度実績	予算増減
事業費	小計	1,650,000	1,550,000	1,556,732	1,199,651	1,371,176	100,000
	北海道支部活動費	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	0
	東日本支部活動費	150,000	150,000	150,000	149,519	150,000	0
	関西支部活動費	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	0
	九州支部活動費	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	0
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	0
	年報作成費	500,000	300,000	363,205	300,132	301,320	200,000
	J-stage移行費	250,000	0	0	0	0	250,000
	記念事業費	0	0	0	0	0	0
	役員選挙費	0	150,000	118,811	0	169,856	-150,000
	名簿作成費	0	200,000	174,716	0	0	-200,000
事務管理費	小計	2,138,880	2,150,000	1,691,371	1,524,349	1,050,434	-11,120
	通信費(郵送料等)	200,000	200,000	107,575	126,417	103,330	0
	HP管理費	38,880	50,000	38,880	38,880	38,880	-11,120
	役員・委員等旅費補助	700,000	700,000	520,000	700,000	400,000	0
	業務外部委託費	1,000,000	900,000	938,496	465,653	86,774	100,000
	その他運営費	200,000	300,000	86,420	193,399	421,450	-100,000
当期支出小計		3,788,880	3,700,000	3,248,103	2,724,000	2,421,610	88,880
特別会計へ	積立金	200,000	200,000	200,000	0	0	0
	寄付金	100,000	0	0	0	0	100,000
予備費	予備費	5,462,096	4,890,298	0	0	0	571,798
当期支出合計(C)		9,550,976	8,790,298	3,448,103	2,724,000	2,421,610	760,678
当期収支差額(A)-(C)		-6,915,876	-6,549,998	365,878	-231,076	517,951	-365,878
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	6,915,876	6,549,998	6,781,074	0

2017(平成29)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算(案)

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2017年度予算額	前年度予算額	2016年度実績	2015年度実績	予算増減
寄付金		100,000	0	0	0	100,000
積立金	小計	200,000	200,000	200,000	0	0
	一般会計より	200,000	200,000	200,000	0	0
雑収入	小計	50	100,050	3	100,090	-100,000
	受取利息	50	50	3	90	0
	その他の収入	0	100,000	0	100,000	-100,000
当期収入合計(A)		300,050	300,050	200,003	100,090	0
前期繰越収支差額		495,149	496,226	496,226	506,374	-1,077
収入合計(B)		795,199	796,276	696,229	606,464	-1,077

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2017年度予算額	前年度予算額	2016年度実績	2015年度実績	予算増減
特別事業費	小計	300,000	300,000	200,000	108,726	0
	高良記念研究助成事業	200,000	200,000	200,000	100,000	0
	榎本記念賞事業費	100,000	100,000	0	8,726	0
事務管理費	小計	1,000	1,000	1,080	1,512	0
	振込手数料	1,000	1,000	1,080	1,512	0
	その他	0	0	0	0	0
予備費	予備費	494,199	495,276	0	0	-1,077
当期支出合計(C)		795,199	796,276	201,080	110,238	-1,077
当期収支差額(A)-(C)		-495,149	-496,226	-1,077	-10,148	1,077
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	495,149	496,226	0

なお、投稿に当たっては、『インターンシップ年報』編集規程』及び『インターンシップ研究年報』第21号研究論文等投稿規程』を必ずよくお読み下さい。これら規程は第20号(近刊)の巻末のほか、学会ウェブサイトに掲載しています。規程が守られていない場合、本委員会での編集作業に著しい負担が生じるほか、違反の内容・程度によっては査読・掲載の対象から外さざるを得ない場合がありますので、規程に則った投稿へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

『インターンシップ年報』編集規程』

<http://www.js-internship.jp/toukou-kitei/hensyu-kitei-2017.pdf>

『インターンシップ研究年報』第21号研究論文等投稿規程』

<http://www.js-internship.jp/toukou-kitei/toukou-kitei-No21.pdf>

みなさまからの積極的な投稿をお待ちしております。

(年報編集委員会委員長 長尾博暢・鳥取大学)

広報委員会報告

2017-2018年度の広報委員会は、委員長高橋秀幸、副委員長吉田雅也、大島慎子委員、見目喜重委員の4名と四支部の広報委員4名を加えた8名が担当いたします。大会や研究会はもちろん、各支部活動の告知や報告に加え、会員間の交流に資する情報提供に努めてまいります。年2回のニュースレター発行、学会webサイトの管理、メールマガジンの配信等を行ってまいりますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

メールマガジン配信先アドレスの登録について

学会webサイトにおける新着情報や教員公募、研究助成に関する情報につきましては、会員の皆様にはメールマガジンでご案内をしています。新入会員の皆様、また法人会員の皆様で個人アドレスに配信をご希望の方は、送信先のアドレスを広報委員会までお知らせください。

広報委員会アドレス：jsi.prc@gmail.com

(広報委員会委員長 高橋秀幸・北海道武蔵女子短期大学)

2017年度高良記念研究助成対象者決定報告

本学会では、平成19年度から、インターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図るため、「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行っております。2017年度(第11回)の研究助成は、2017年4月に応募用

紙を各会員に送付し、同年6月9日を締切として募集いたしました。今年度の研究助成申請者は3件でしたが、審査委員の厳正な審査の結果、樫村真由会員(独立行政法人国立高等専門学校機構東京工業高等専門学校 准教授)の「日本人が参加する海外におけるインターンシップで与えられるタスクの実証的な研究」と、岩井貴美会員(近畿大学大学院商学研究 大学院生/近畿大学経営学部キャリアサポートオフィスサポーター)の「1日インターンシップがもたらすキャリア教育としての効果について～学生と企業の視点に着目して～」の2件が採択されました。

なお、2018年度(第12回)の研究助成応募期間は2018年4月～6月を予定していますが、詳細につきましては、決定次第会員の皆様にご連絡いたします。

是非、多くの応募申請がなされますよう期待しております。

(2017年度高良記念研究助成審査委員長 山口圭介・玉川大学、2017-2018年度高良記念研究助成審査委員長 牛山佳菜代・目白大学)

企画研究WG報告

本WGは2009年10月に始まり、初代吉本圭一委員長、第2代亀野淳委員長、そして安孫子勇一前委員長が歴任されてきました。WGの目的は、さまざまな学術的、実践的な研究活動、特に共同での研究活動を促進し、また学会として必要とされる研究活動を企画していくことです。

歴代委員長の活動として、1つは日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策が検討されてきました。成果としては、2010～2013年度までは2つの科研の採択(研究代表・亀野淳会員「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」：平成22～24年度・基盤研究B、研究代表・椿明美会員「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」：平成23～25年度・基盤研究B)、そして2011年度には文部科学省先導的の大学改革推進委託事業「国内外における産学連携によるキャリア教育・専門教育の推進に関する実態調査」(事業代表・吉本圭一会員)の受託など、先端的な研究、共同研究としての取り組みがまず挙げられます。そして、2011年度の鳥取大会の総括セッションでの問題提起となった「実践の相対化」を具現化する取組みとして2012年度から年報編集委員会と共催で「日々の実践から研究企画と論文作成に向けて」というテーマを掲げ、学術研究・論文作成セミナーが東京(2012年12月)、札幌(2014年12月)、京都(2016年8月)、福岡(2016年12月)の4支部で開催されました。2つ目は国際的な対応です。これは第2代亀野

委員長・安孫子前委員長が WACE (the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education) の活動、特に第 19 回世界大会 (2015 年 8 月京都産業大学にて) に取り組まれてきました。

WG の活動は 9 年目を迎えます。この間、学会活動も少しずつ変化してきました。歴代委員長の志と活動を受け継ぎながら、会員の皆様の研究活動、特に実践的な活動を研究に結びつける方策について、新しい WG メンバーと共に、各支部の意見を取り入れながら企画を検討していきたいと存じます。

(企画研究 WG 委員長 江藤 智佐子・久留米大学)

榎本記念賞ワーキンググループ報告

2017 年度から榎本記念 WG 委員長を拝命いたしました松坂でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。本賞は、大阪経済大学の榎本名誉教授のご寄付により創設されました。これまで WG による厳正な選考のもと、全国から推薦された事例の中から、秀逸なインターンシップ事例を選定して参りました。

改めて、この度第 18 回学会大会にて選定された事例を紹介させていただきます。

【最も秀逸な事例】

・近畿大学
「低学年インターンシップ教育の取り組み評価 ～近畿大学を事例として～」

【秀逸な事例】

・九州インターンシップ推進協議会
「産学官連携による地域の人材育成」
・和歌山大学
「インターンシップ実践例と質を向上するための仕組みづくり ～ 学生向け・企業向けのワークシートの開発～」
・西九州大学
「体験型学修を通じて DP を具現化する取組 ～西九州大学におけるインターンシップの位置づけという観点から～」
・ものづくり大学
「インターンシップ事例報告 ～長期 40 日インターンシップと学生の将来についての一考察～」

本 WG はこれまでの議論を踏まえながら、同賞のあり方や運用方法などについてさらに 検討を進め、優れたインターンシップ事例の普及に取り組んでいきたいと考えています。

(榎本記念賞 WG 委員長 松坂暢浩・山形大学)

支部活動報告

【北海道支部】

北海道支部では、例年 3 月ころ、6 月ころの 2 回、研究会を開催していますが、2016 (平成 28) 年度については、9 月に全国大会を控えていることから、6 月の研究会を開催せず、大会実行委員会など実務的な作業の時間に充てております。

大会実行委員は支部役員を中心に会員から選出しており、総勢 11 名で運営をしておりました。実行委員長である小林が全体のとりまとめ、理事会への報告を行い、作業を各委員に分担する形で進めました。連絡はメーリングリスト等を活用しましたが、2 か月ごとに実行委員会を開催しておりました。

2017 (平成 29) 年度は通常通り、年 2 回の研究会体制に復帰する予定です。まだ内容は未定ですが、会員による発表だけでなく、講演会や研究会の公開なども検討しております。詳細につきましては、役員打合せによる決定の後、各会員にメールでお知らせする予定です。

(北海道支部事務局担当 小林 純・札幌国際大学短期大学部)

【東日本支部】

支部名称を「東日本支部」に変更して初めてとなる第 1 回支部総会の開催に向けて、2017 年 6 月 11 日、品川プリンスホテルにおいて、東日本支部の役員会が開催されました。ここでは、例年と同じく前年度 (2016 年度) の決算報告と翌年度 (2017 年度) の予算ならびに事業計画に加えて、玉川大学出版部より 4 月に刊行された東日本支部監修『インターンシップ実践ガイド』の報告がなされました。また、榎本記念賞の推薦についての審議もおこなわれ、東日本支部としては、4 件の推薦をおこなうことを決定致しました。

この役員会での協議をふまえ、7 月 2 日には、中央大学駿河台記念館において、記念すべき第 1 回研究会と支部総会を開催致しました。研究会では、支部運営委員として支部の発展を支えてくださった古閑博美先生 (嘉悦大学) による「インターンシップのあり方 —『行の文化』の時代のインターンシップ—」と題した基調講演と、吉田雅也先生 (淑徳大学) の「インターンシップの実質化」と題した講演がおこなわれ、盛況のうちに終了することができました。また、支部総会では、2016 年度の事業報告と監査報告、2017 年度の事業計画案ならびに予算案が承認されました。

これにともない、東日本支部では、新たな役員体制のもと、支部活動を展開していくこととなります。更なる支部活動の充実と発展に向けて、東日本支部の会員の皆さまをはじめ、全国の会員の皆さまのご

支援とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

(東日本支部運営委員 山口圭介・玉川大学)

【関西支部】

第12回支部研究会を6月9日(金)の夕方にキャンパスポート大阪にて開催いたしました。報告者は木村亮介会員(和歌山大学)と岩井貴美会員(近畿大学院)でございました。なお、和歌山大学のテーマは、「インターンシップ実践例と質を向上するための仕組みづくり～学生向け・企業向けのワークシートの開発～」であり、近畿大学のテーマは「低学年インターンシップ教育の取り組み評価～近畿大学を事例として～」でございました。

また、8月31日(木)に開催された年次総会において、和歌山大学と近畿大学がインターンシップの「秀逸な事例」として「榎本記念賞」を受賞されました。「榎本記念賞」は、大阪経済大学名誉教授の榎本淳子先生のご支援をいただき、優れたインターンシップの実践事例を集め、周知していくことで、インターンシップの質的向上を試みる取り組みであり、関西支部会から2つの大学が受賞されたことを嬉しく思っております。

なお、私、立命館大学の廣瀬幸弘は近畿大学の安孫子先生から本年度の4月より関西支部会の支部長を引き継ぎさせていただき、来年の九州支部で開催される本大会の次は、関西支部の京都での本大会開催を予定し準備を進めております。私が所属する立命館大学では、現在、インド工科大学ハイディラバード校(IIT-H)との産学国際協働PBLプログラムを展開しており、毎年、ほぼ半年間の長期インターンシップを実施しております。このプログラムで得られた知見等について、来年および再来年の本大会で研究発表し、本学会会員の皆様から貴重なコメントやアドバイスをいただくことを楽しみにしています。(関西支部会支部長 廣瀬幸弘・立命館大学)

【九州支部】

九州支部第19回研究会を開催しました

去る2017年6月3日(土)に九州大学箱崎キャンパスの文・教育・人環研究棟会議室において、九州支部第19回研究会を開催しました。インターンシップの多様化は、期間や実習先だけにとどまらず、教育・実施形態、正課内外など実習の位置づけなど、多岐にわたるようになってきました。そこで、今回のテーマは「多様なインターンシップ実践事例共有会」と題し、組織的に積極的なインターンシップを実践している異なるタイプの4つの機関に登壇いただき、その活動内容と成果を事例報告いただいた後、参加者と共に課題を共有し、今後の展開を相互に検討し合うアプローチをとることにしました。

第1番目は、実践型インターンシップの事例とし

て西九州大学の井本浩之氏と石川聖子氏から「体験型学修を通じてDPを具現化する取組～西九州大学におけるインターンシップの位置づけという観点から～」と題し、サービスラーニング、インターンシップ、PBL学修などを「体験型学修」とし、すべて正課科目(「あすなろう体験Ⅰ～Ⅲ」と専門教育科目の地域志向型(体験型)科目)に配置した全学的な取組について、全学生が履修するカリキュラムをディプロマポリシー(DP)に基づき具現化していることが示されました。続いて、一般社団法人九州インターンシップ推進協議会のチェ・キョンミ会員より仲介組織として「産学官連携による地域の人材育成」について、年間約1,000名にインターンシップの機会を提供できる仕組みと組織体制づくりを確立した経緯、そして2週間程度の一般的なインターンシップにとどまらず、中期実践型、地域密着型、PBLなど学生の能力を伸ばすための課題解決型のプログラムの開発や留学生支援自治体連携など将来を見据えた取組についても精力的に取り組んでいることが報告されました。3番目として、長崎短期大学の藤原由衣子会員・中野明人会員・牟田美信会員より「短期大学におけるギャップイヤー型インターンシップの導入と実践」について、クォーター制を導入し、4か月のギャップイヤー(正式にはギャップターム)を設定することで、インターンシップや留学、地域と連携したサービスラーニングの参加で単位認定を行う仕組みや実習期間の学生へのきめ細かな対応を行う教員体制、その後の評価測定の方法などについても報告されました。最後に、北九州市立大学の片岡寛之氏より、「地域創生学群チャレンジプログラム」というテーマで地域創生学群の取組について、1年次からの2年間の地域実践活動の後、チームを離れて週3日、フルタイム勤務、5ヶ月間の長期インターンシップなど多様な期間・実施形態を正課型長期インターンシップとして休学せずに実施していることが報告されました。

どの報告も担当者・教員だけが熱心に取り組むだけでなく、組織的な体制づくりや連携体制、科目間の関連など、展開に示唆を与える報告でした。この中から3団体が榎本記念賞「秀逸なるインターンシップ」として、九州支部からエントリーすることになりました。(詳細は榎本記念WGを参照ください。)

2017年度支部総会・九州支部第20回研究会のご案内

来る12月17日(日)午後に2017年度支部総会ならびに九州支部第20回研究会を佐賀女子短期大学で開催いたします。詳細については、後日学会ウェブサイト等でご案内いたします。

(九州支部広報担当 江藤智佐子・久留米大学)

事務局からのお知らせ

新事務局長挨拶

この度、2017-2018 年度の事務局長の任に就きました根木良友と申します。大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。不慣れな事、戸惑う事が多くございますが、諸先輩方が築き上げた本学会をさらに発展させていくべく鋭意努力いたしますので、会員ならびにご関係の皆様方におかれましては、ご指導ご鞭撻くださいますようどうぞよろしくお願いいたします。

事務局の移転について

事務局が以下のとおり九州大学から玉川大学に移りました。新しい事務局の連絡先は以下のとおりです。

〒194-8610

東京都町田市玉川学園 6-1-1

玉川大学キャリアセンター内

E-mail : jsi-sec@js-internship.jp

Tel : 042-739-8915 Fax : 042-739-8921

なお、雑事で研究室を不在にしていることが多いため、お問い合わせは出来る限りメールでお願いいたします。

会員情報変更の連絡について

前号の News Letter 記載の通り、会員情報管理を（株）ガリレオへ外部委託すると共に会員情報管理システム（SOLTI）を導入し、会員情報管理をオンライン化しております。つきましては、会員情報の修正が必要な場合は、学会ホームページへアクセスの上、システム（SOLTI：会員情報照会・更新）にログインして修正を行ってください。

（事務局）

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2017 No.1

発行日：平成 29 年 11 月 21 日

発行：日本インターンシップ学会 会長 折戸 晴雄

編集：日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 高橋 秀幸

印刷：日本インターンシップ学会事務局 事務局長 根木 良友

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

玉川大学キャリアセンター内

E-mail : jsi-sec@js-internship.jp

Tel : 042-739-8915 Fax : 042-739-8921